

第 1497 回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 令和 5 年 8 月 24 日 木曜日
開会 9 時 30 分 閉会 10 時 40 分

2 場 所 京都市総合教育センター 第 1 研修室

3 出 席 者 教 育 長 稲田 新吾
委 員 笹岡 隆甫
委 員 松山 大耕
委 員 石井 英真

4 欠 席 者 委 員 奥野 史子
委 員 野口 範子

5 傍 聴 者 1 名

6 議事の概要

(1) 開会

9 時 30 分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1496 回京都市教育委員会会議の会議録について、全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 3 件

イ 非公開の承認

議案 2 件については、市長の作成する議会の議案に対しての意見の申出及びその他の関係機関と協議等を必要とする事項に関する事項、人事に関する案件であり、京都市教育委員会会議規則第 3 条に掲げる「非公開事項」に該当するため、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全員の承認が得られた。

ウ 非公開の宣言

教育長から、議案 2 件について、会議を非公開とすることを宣言。

エ 議決事項

議第 11 号 令和 6 年度京都市立高等学校第 1 学年生徒募集定員について

(事務局説明 小枝 学校指導課担当課長)

まずは、令和5年3月の京都市立中学校卒業生の状況について説明する。本市立中学校卒業生数は、前年度から145名減少し、9,268名となっている。定時制・通信制等を含む高校等への進学率は、99.0%と例年ほぼ横ばいであるが、そのうち、全日制高校への進学率は88.5%となり、昨年度から1.0ポイント減少している。全日制への進学者のうち、公立は昨年度から0.7ポイント増加の52.5%、私立は昨年度から1.8ポイント減少し、35.9%となっている。定時制への進学者は、進学率2.1%と昨年度から0.2ポイント増加している。また、通信制の進学率は5.9%と、昨年度から0.5ポイント増加しており、通信制の進学率が大幅に増加し始めた令和3年度選抜から、増加傾向は落ち着きつつある。

次に、昨年度の入学者選抜結果の全体概要について説明する。京都市・乙訓地域の通学圏の公立高校においては、公立高校全日制・定時制を合わせて6,640名の募集定員枠を設定し、6,391名が合格、249名の欠員が生じている。そのうち、全日制において、6,170名の定員を設定し、6,092名が合格、78名の欠員、定時制において、470名の定員を設定し、299名が合格、171名の欠員が生じている。

次に、選抜方式には、前期・特別入学者選抜・中期・後期とあり、区分ごとに説明する。前期選抜では、各学校の定員のうち、普通科は30%、職業学科は70%を募集しており、西京高校のエンタープライジング科や堀川高校の探究学科群などの、その他専門学科については、前期選抜で定員のすべてを募集している。昨年度は6,238名が受検し、2,883名が合格している。特別入学者選抜では、帰国子女等、社会人、長期欠席者を対象とした募集や、府立清明高校、市立京都奏和高校の特別入試での募集を行っており、353名が受検し、221名が合格している。中期選抜では、3,558名が受検し、3,257名が合格している。後期選抜では、中期選抜で欠員が生じた学校のうち、全日制普通科の鳥羽、洛西、洛水、向陽、全日制職業学科の京都すばる、定時制の朱雀、鳥羽、桃山で実施し、全日制では19名が受検、定時制では12名が受検し、計31名が全員合格している。

また、参考として、令和3年4月に開校した京都奏和高校と、令和5年4月に開校した開建高校、美術工芸高校の選抜結果を掲載している。京都奏和高校については、初年度に比べて倍率が落ち着きつつあるが、約2倍と依然高い水準にある。引き続き、集団での学び直しというコンセプトを、中学生・保護者はもちろん中学校にも丁寧に説明してまいりたい。また今年度に移転・開校した開建高校・美術工芸高校については、両校ともに、志願者が多く確保できており、引き続き特色ある学びについて中学生等に伝えてまいりたい。

次に、京都市乙訓地域における市立高校での募集定員について説明する。まず、募集定員を検討する際の基本的な方針として、中学3年生の進路保障を最優先事項とし、京都市及び乙訓地域の状況について、府立高校を所管する京都府教育委員会と4月以降も協議を重ね、先日、府市の部長間で協議を行い、本日の議案提出に至った。

定員協議の前提となる、市乙地域の今年度の中学3年生の生徒数については、10,543名であり、前年度より97名減少。また令和5年度選抜の未充足状況は、普通科で51名、専門学科では41名。令和5年度選抜の市立中学生の進路状況は、先ほども説明したとおり、全日制進学率は、昨年度から1.0ポイント減少するなど、減少傾向にあるものの、私立高校への進学率が1.8ポイント減少に比べ、公立高校への進学率は昨年度より0.7ポイント増加している。

なお、進路選択の多様化が進む中、通信制進学率は引き続き増加傾向にあるが、その増加率は落ち着きつつある。

これらの前提を踏まえ、全日制では、生徒数の減少も比較的少なく、公立高校への進学率の維持向上も期待できるため、市立高校も含め、公立高校の定員は現状維持としたい。次に定時制であるが、学び直しや不登校などの生徒のニーズに対応していくよう、市立高校も含め、公立高校の募集定員は現状維持としたい。

なお、京都工学院高校においては、フロンティア理数において、未充足が生じている。工業科系高校に、理系の大学進学を目指すフロンティア理数があることへの生徒や保護者の認知度、また工業科である「プロジェクト工学科」とフロンティア理数科が並置されていることの魅力が十分に浸透していないことが課題の一つであると考えている。本年度、工学院高校は、文科省から新たにスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、工業と物理や化学などを一緒に学ぶクロスカリキュラムの開発など教育内容の更なる充実を図るとともに、生徒の活動がイメージできる学校説明会の実施や中学校訪問の充実など、より多くの中学生に工学院を知ってもらうことで、生徒募集における課題の改善につなげたい。府立高校も全日制・定時制とも増減なしの方針であり、本日の京都府の教育委員会議で審議予定である。

続いて、令和6年度京都府公立高等学校入学者選抜日程については、新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、中期選抜の追加選抜を実施しないなど感染拡大以前の日程に戻して実施を予定している。

議第11号についての説明は以上である。

(委員からの主な意見)

【松山委員】 私学の高校で定員が著しく割れている学校はあるか。

【事務局】 学校ごとであっても年度によって変動もあるため、一概には言えない。なお、直近の選抜において中学生の私学への進学率が1.8ポイント減少しているが、これまでの同程度の変動はあり、私学離れに直結するとは単純に言い切れない。もう少し長期的に見ていく必要がある。

【稻田教育長】 京都の北部地域の私学は生徒募集に苦労されていると聞いている。

【笛岡委員】 私学の定員割れに対するフォロー等は、京都市として行っているのか。

【事務局】 私学に関することは、助成金なども含め、京都市教育委員会ではなく、京都府の文教課が行っている。

【笛岡委員】 私学をどうしていくのかというところも、考えるべき課題かと思う。定員について、府市での相談があると思うが、私学とはされていないのか。

【事務局】 私学とも協議の場を設けており、特に生徒急増期には私学で定員を拡大し、進路確保をしていた経過がある中、現在も市立中学生のうち4割弱が私学へ進学している状況。少子化の進展する中、引き続き公私で対応を考えていかなければならない。

【石井委員】 進路選択の多様化が進む中で、具体的な内容や傾向等を教えてもらいたい。通信制の進学率が増加傾向ということも含めて、多様化の内容の一つとして、定時制の定員を維持することにも関わるかと思うが、定時制にはどのような生徒が通っているのか。実際に京都府の会議に出ていた際に、特色化・魅力化について、普通科のあり方や柔軟な高校で居場所を提供する場というのが重要な役割を占め始めているといった話題があった。

【事務局】 通信制への進学率は令和3年度から増加しており、この現状について検討

を進めているところではあるが、コロナ禍において、学校に行かなくても学びが継続できるという経験もある中で、通信制が選択されやすくなってきているのではないかと思う。また、夜間定時制の状況は5割未充足の状況であり、勤労青年というよりも、全日制での学びに困難を感じる生徒や、外国から来られた生徒が学ぶ側面がある。

【石井委員】 ニーズの多様化にどういった形で対応していくのかを考えた際に、府市間の役割分担についても議論していかなければならない。

【事務局】 これまでから、市立・府立がともに公立高として役割を担っており、今後のニーズへの対応についても府市協調で進めていく。

【稻田教育長】 京都奏和高校のような学校は倍率が高い状況にあるため、府に対し、京都府南部に同様の学校をつくってもらいたいとお願いしているところである。

(議決)

教育長が、「議第 11 号 令和 6 年度京都市立高等学校第 1 学年生徒募集定員について」について、各委員「異議なし」を確認、議決。

議案 2 件については、市長の作成する議会の議案に対しての意見の申出及びその他の関係機関と協議等を必要とする事項に関する事項であること、人事に関する案件であるため、非公開

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

8月19日 令和6年度 教員採用選考試験（2次試験）

～8月20日

8月21日 文教はぐくみ委員会（他都市調査）

～8月23日

8月24日以降 市立学校2学期開始

○事務局から、当面の日程について説明

(5) 閉会

10時40分、教育長が閉会を宣告。

署名 教育長